

治療した部位と治療方法

1 問診診察結果 (レコードプレイヤー)

- (1) 子どもさんが童謡等を聞くためのプレイヤー。全く動かない (図-1) (図-2)
- (2) 回転切替つまみを、33・45に切り替えてもターンテーブルが回転しない。

※ 図・写真は全て治療及び手入れ後のものです。



図-1 元の回転切替つまみの位置



図-2 元の回転切替つまみ拡大図

2 治療の方法

- (1) まず、ターンテーブルの上に絵を張付けているゴムマットを剥がす。(図-3)
- (2) 次に、ターンテーブルが抜けないようにしている留め金を外し、図-4 のように外す。

この写真のターンテーブルは裏側である。

円の内側に図-5 の  の黒いゴムの円盤が接触してターンテーブルを回転させる仕組みである。





図-3 ゴムマット



図-4 ターンテーブルの裏



図-5 黒いゴムの円盤

- (3) 当初全く動かなかった原因を説明します。
 - 受付したときの回転切替つまみ位置は、図-1 と 2 の通りでした。
 - この状態では、スイッチは入り赤色灯は灯ります。が、ターンテーブルは回転しない仕組みです。
 - 図-5 の  のしたに見える突起  は、図-6 の手書きの図で示すスピンドルと言うものである。
 - 0 の位置では、図-5 のようにスピンドルとゴム円盤は離れているのが正しい状態です。

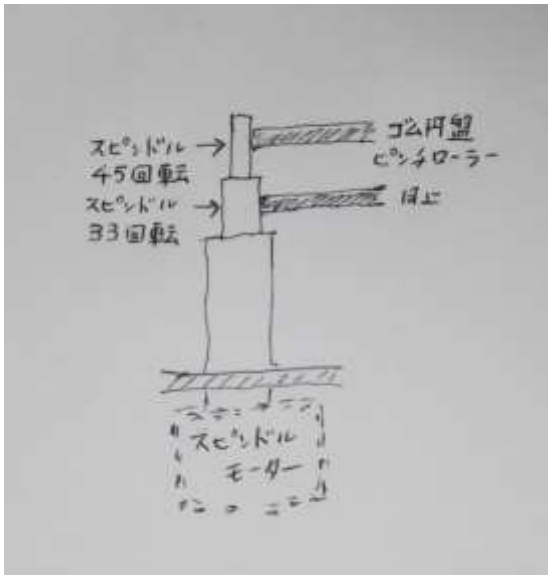


図-6 手書きのスピンドル図



図-8 0の位置でスピンドル45回転に接触

- ところが、実際には、図-8のようにスピンドルの45回転の位置になっていた。
- ※ この状態でスイッチONにすれば、回転しなければならないのに回転しなかった。

- 電氣的に特別な治療はしなかった。ゴム円盤の接触部の手入れ、スピンドルの手入れ、スピンドルモーターを手動で回転を繰り返した、スイッチ(ボリューム)も入り切りを数回した。レコードの中心軸と軸の頂上に乗る金属性の玉も磨いた。そして、必要とするところへは、油脂も塗布した。ただそれだけで回転するようになった。
- 回転切替つまみの組み込み(0位置)と、接触するスピンドルの位置が違っていたことが原因で、「つまみ」の組み込みを正しくすることで、33回転・45回転も表示通りできるようになった。
- 最後に参考写真を掲載します。



図-9 33回転つまみとスピンドルの位置

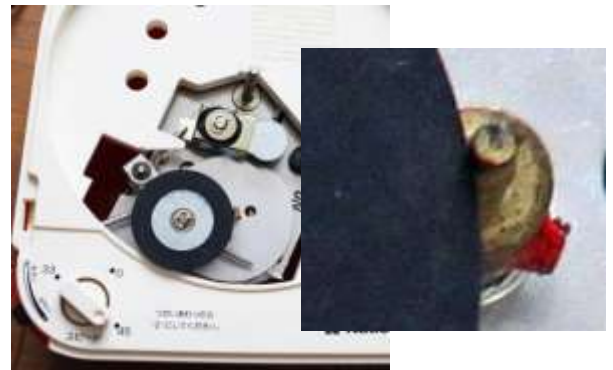


図-10 45回転つまみとスピンドルの位置



左 直径17.4cmのレコード盤

右 直径30cmのレコード盤

※33回転・45回転テスト異常なし



3 ドクターからのアドバイス

松下電器産業株式会社製で40年以上前の製品だそうです。まだまだ使えます。大切に致しましょう。

お渡し予定日：平成29年05月14日

担当ドクター：谷 春 雄